

2023. **12**
No. **225**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第70回くらしのアンケートから～

要	約		1
1	家計の状況		3
2	今冬の買物計画		4
3	おけいこ事、塾・サークル		6
4	貯蓄		7
5	ローン等の利用		8
6	冬季ボーナス		10
7	お歳暮		11
8	冬休み、年末・年始の過ごし方		13
(特別調査) 物価上昇・キャッシュレス決済関連			14

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が8.2%、「悪くなった」が31.0%、「変わらない」が60.8%。「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△22.8。
県内景気は、製造業の一部で弱い動きがみられるものの、非製造業が持ち直しており、企業のボーナス支給見通しも改善している。一方で、食料品や日用品、光熱費など生活関連の物価は高騰が続く。そのため、家計の負担感は増しており、県内勤労者の生活実感も悪化していると考えられる。
- 家計上の悩みは、「物価上昇」が最も多く、以下、「収入の伸び悩み」、「税金等負担増」の順。

2. 今冬の買物計画

- この冬購入したい商品は、「婦人服」、「紳士服」、「スマートフォン」、「子供服」、「暖房機器」の順。
- 昨冬比で購入予定比率が上昇した品目は10品目。上昇幅が比較的大きい品目もみられるなど、消費マインドは経済活動の正常化に伴い改善。一方、低下した品目が10品目。
- 購入予定先は「インターネット通販」、「一般小売店」、「家電量販店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「ホームセンター」の順。

3. おけいこ事、塾・サークル

- 参加したいおけいこ事は、「料理」が1位で、以下、「ビジネス・キャリアアップ講座」、「パソコン・プログラミング」、「楽器」の順。
- 年代別にみると、1位は20代、40代、50代以上が「料理」、30代が「ビジネス・キャリアアップ講座」。2位は20代が「ビジネス・キャリアアップ講座」、30代が「料理」、40代が「パソコン・プログラミング」、50代以上が「ガーデニング」。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は507万円で、現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「株式」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「株式」、「ゆうちょ銀行貯金」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は28.8%で、平均借入額は1,019万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」の順。
- 借入先は「銀行（メガバンク・地方銀行）」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「ネット銀行」、「銀行以外の金融機関」（同順位）の順。
- 借入先を選択する理由は、ローン利用者、未利用者ともに「金利の低さ」が1位で、2位はローン利用者が「審査が通りやすい」、未利用者が、「手数料負担が少ない」。

6. 冬季ボーナス

- 冬季ボーナスは、すべての年代で「減りそう」が「増えそう」を上回ったが、両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は△14.9と、昨冬の△15.7とほぼ同水準。総体では、勤労者のボーナスに対する見方に然程変化がみられない。
- 平均手取り予想額は37万9千円。使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」の順。

7. お 歳 暮

- お歳暮を贈る予定者は、全体の 28.0%。贈る件数は「2 件以下」が最も多く、平均贈答件数は 2.7 件。
- 1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が最多で、平均単価は 3,909 円。
- 贈りたい商品は「ハム・ソーセージ」が最多で、以下、「お菓子・スイーツ」・「ビール（含むビール券）」（同順位）、「直送生鮮品」、「食用油」の順。

8. 冬休み、年末・年始の過ごし方

- 「特に予定なし」が最も多く、以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順。
- 「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「1 泊」が最多で、平均宿泊日数は 1.8 日。

(特別調査) 物価上昇・キャッシュレス決済関連

物価上昇への対策とキャッシュレス決済の利用状況の調査を実施。

- 物価上昇に対し取り組んでいる対策については、「食費の節約」が最多で、以下、「光熱費の節約」、「ポイントの活用」の順。一方、「対策をしていない」は 24.2%。
- キャッシュレス決済の利用状況は、「利用している」が 79.0%、「利用したことはない」が 14.4%、「利用したことがあるが、現在は利用していない」が 6.6%。
- キャッシュレス決済の利用頻度は、「ほぼすべて」が 54.4%、「現金決済と同程度」が 33.9%、「特定の場面のみ」が 11.7%。

● 調査実施要領

調査対象：インターネット調査会社にモニター登録されている県内の勤労者 549 名

調査方法：調査会社モニターあての Web アンケート調査

調査時期：2023 年 10 月下旬から 11 月上旬

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	113人	20.6%
	30 代	110	20.0
	40 代	163	29.7
	50 代 以 上	163	29.7
家 族	既 婚	294	53.6
	未 婚	255	46.4
性 別	男 性	368	67.0
	女 性	181	33.0
合 計		549	100.0

(参考) 前回 (2022 年冬季) 内訳

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	100人	18.8%
	30 代	112	21.0
	40 代	158	29.6
	50 代 以 上	163	30.6
家 族	既 婚	303	56.8
	未 婚	230	43.2
性 別	男 性	342	64.2
	女 性	191	35.8
合 計		533	100.0

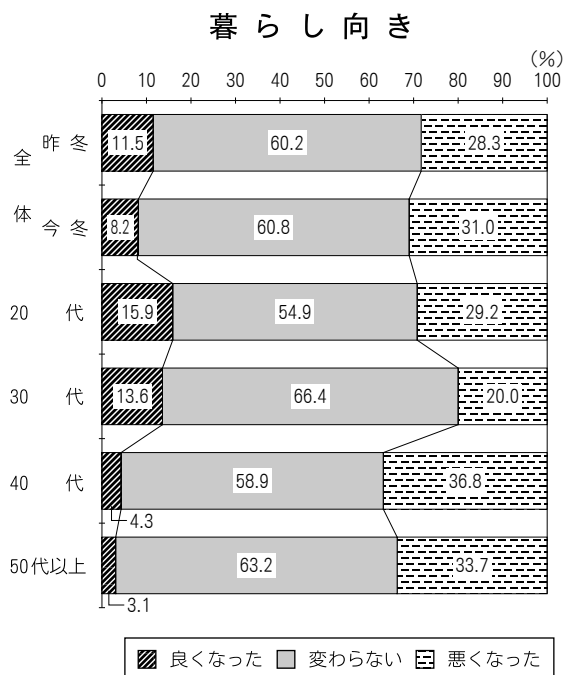
1 家計の状況

暮らし向きは悪化傾向続く

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が8.2%、「悪くなった」が31.0%、「変わらない」が60.8%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△22.8となり、昨冬比で6.0ポイント悪化した。

県内景気は、製造業の一部で弱い動きがみられるものの、非製造業が持ち直しており、企業のボーナス支給見通しも改善している。一方で、食料品や日用品、光熱費など生活関連の物価は高騰が続く。そのため、家計の負担感は増しており、県内勤労者の生活実感も悪化していると考えられる。

年代別にみると、「悪くなった」の回答比率が最も高かったのは40代（36.8%）で、以下、50代以上（33.7%）、20代（29.2%）、30代（20.0%）と続いた。一方、「良くなった」の回答比率は20代（15.9%）、30代（13.6%）が二桁となった一方、40代（4.3%）、50代以上（3.1%）は低位にとどまっており、若年層と比べて生活費負担の重い中高年層で、暮らし向き改善の実感に乏しい状況が窺われる。

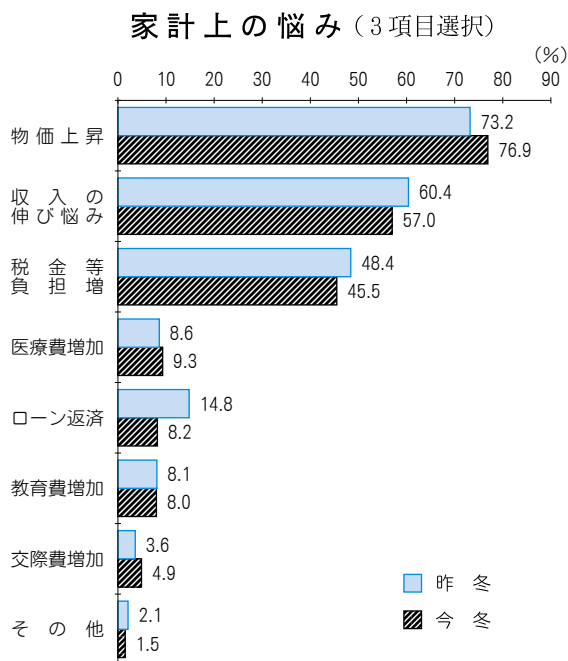


家計上の悩みは「物価上昇」が1位

家計上の悩み（3項目選択）は、「物価上昇」が最も多く、以下、「収入の伸び悩み」、「税金等負担増」と続いた。

このうち「物価上昇」は資源高や円安の進行を背景に食料品や電気代、ガス代など生活に関わる多くの品目で価格が上昇していることを背景に、昨冬（73.2%）から3.7ポイント上昇した。なお、この比率は、1989年の調査開始以降、最も高い水準となった。

昨冬と比較すると、比率が上昇した項目は「物価上昇」（+3.7ポイント）、「交際費増加」（+1.3ポイント）、「医療費増加」（+0.7ポイント）であった。一方、比率が低下した項目は「ローン返済」（△6.6ポイント）、「収入の伸び悩み」（△3.4ポイント）、「税金等負担増」（△2.9ポイント）、「教育費増加」（△0.1ポイント）であった。



2 今冬の買物計画

消費マインドは改善

この冬購入したい商品（20品目について複数回答）は、「婦人服」が最多で、以下、「紳士服」、「スマートフォン」、「子供服」、「暖房機器」と続いた。1位、2位は変動がなかったが、昨冬3位の「暖房機器」が5位に順位を落とした一方、同4位の「スマートフォン」が3位に順位を上げた。

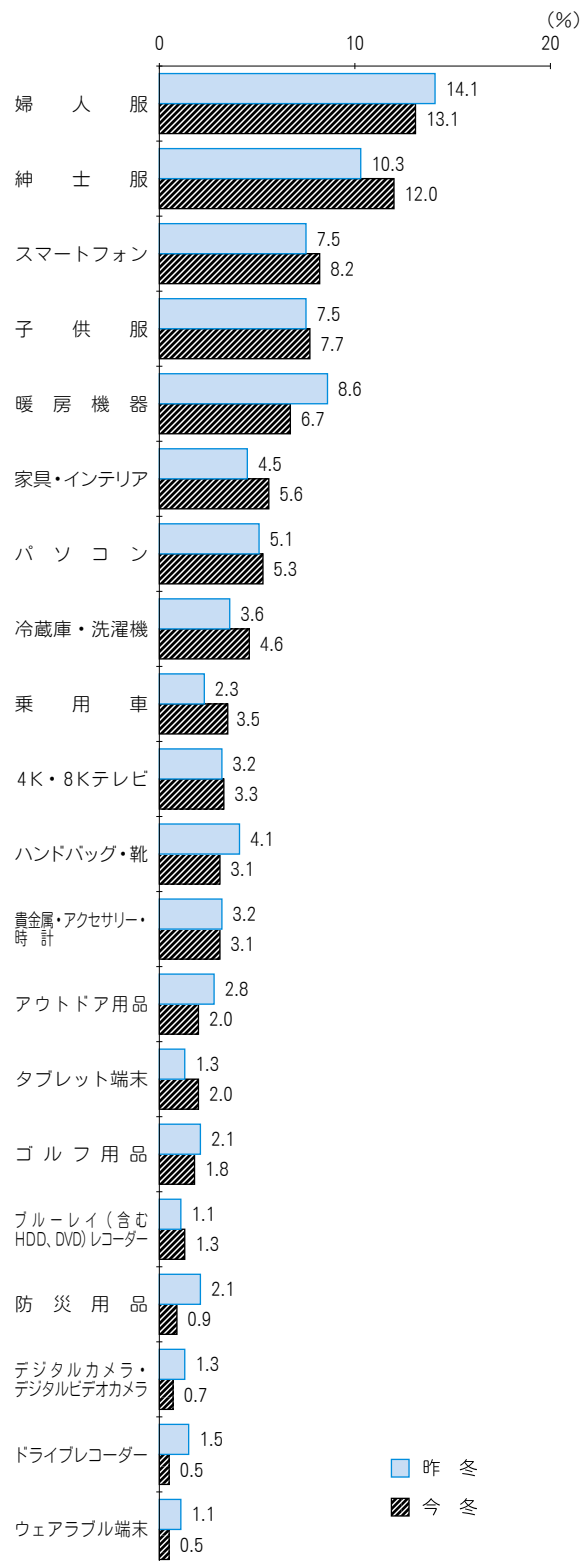
昨冬と比べて購入予定比率が上昇した品目をみると、「紳士服」、「スマートフォン」、「子供服」、「家具・インテリア」、「パソコン」、「冷蔵庫・洗濯機」、「乗用車」、「4K・8Kテレビ」、「タブレット端末」、「ブルーレイ（含むHDD、DVD）レコーダー」の10品目で、昨冬（6品目）と比べて4品目増加した。特に定番品の「紳士服」が1.7ポイント上昇したほか、「乗用車」、「家具・インテリア」、「冷蔵庫・洗濯機」など耐久消費財の上昇幅が比較的大きく、コロナ禍で弱含んでいた消費マインドが、経済活動の正常化に伴い改善している様子が窺われる。

「暖房機器」の購入予定比率が低下

購入予定比率が低下した品目は、「婦人服」、「暖房機器」、「ハンドバッグ・靴」、「貴金属・アクセサリー・時計」、「アウトドア用品」、「ゴルフ用品」、「防災用品」、「デジタルカメラ・デジタルビデオカメラ」、「ドライブレコーダー」、「ウェアラブル端末」の10品目（昨冬13品目）となった。

このうち「暖房機器」は、今冬の暖冬予想もあり、下落幅が最も大きかった。それ以外の品目は下落幅が1ポイント以下と小幅にとどまっている。

主要商品の購入予定状況（複数回答）



購入予定先はインターネットが1位

この冬購入したい商品の購入予定先（複数回答）は、「インターネット通販」が最も多く、以下、「一般小売店」、「家電量販店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「ホームセンター」と続いた。

昨冬と比較すると「インターネット通販」、「家電量販店」の比率が低下した一方、「一般小売店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「ホームセンター」、「百貨店」などの比率が上昇した。

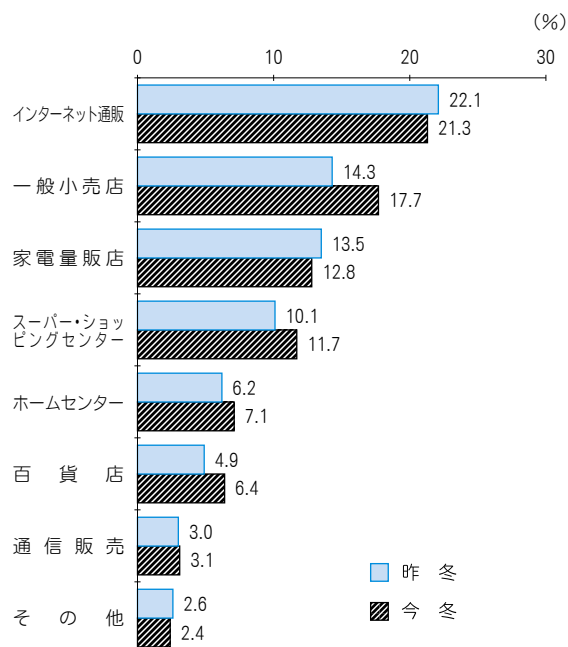
なお、「インターネット通販」は2020年冬

の調査以降、4期連続で1位となっている。スマートフォンが幅広い年代に普及するなかで、インターネットショッピングが買い物の主要チャネルとして定着している様子が窺われる。一方、「一般小売店」が3.4ポイント、「スーパー・ショッピングセンター」が1.6ポイント、「百貨店」が1.5ポイント上昇するなど、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、その影響が和らぐなかで、対面での買い物機会が増加していると考えられる。

今冬購入予定の商品ベスト5

	全 体	20 代	30 代	40 代	50 代 以上
1位	婦 人 服	婦 人 服	婦 人 服	紳 士 服	紳 士 服
2位	紳 士 服	紳 士 服	子 供 服	スマートフォン	スマートフォン
3位	スマートフォン	スマートフォン、 家 具 ・ インテリア (同順位)	紳 士 服	婦 人 服	婦 人 服、 家 具 ・ インテリア、 乗 用 車 (同順位)
4位	子 供 服		暖房機器、 家 具 ・ インテリア (同順位)	子 供 服、 暖房機器 (同順位)	
5位	暖房機器				

購入予定の店舗（複数回答）



3 おけいこ事、塾・サークル

参加したいおけいこ事は「料理」が1位

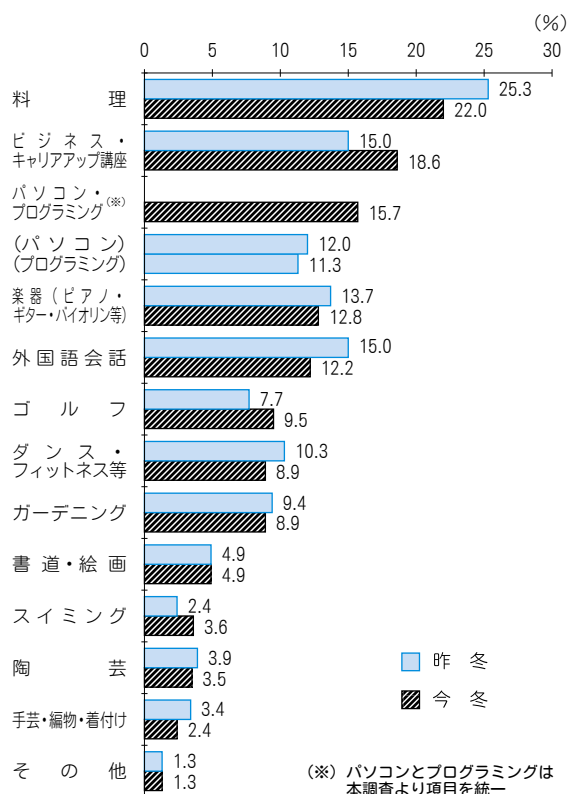
参加したいおけいこ事や塾・サークル（複数回答）は、「料理」が1位となり、以下、「ビジネス・キャリアアップ講座」、「パソコン・プログラミング」、「楽器」、「外国語会話」、「ゴルフ」の順となった。

昨冬と比較すると、1位、2位に順位の変動はなかった。「外国語会話」が3位から5位に順位を下げた一方、「ゴルフ」は9位から6位に順位を上げた。なお、前回5位の「パソコン」、6位の「プログラミング」は今回「パソコン・プログラミング」に統一し、3位となった。

回答比率をみると、「ビジネス・キャリアアップ講座」、「ゴルフ」、「スイミング」の比率が上昇した一方、「料理」、「楽器」、「外国語会話」、「ダンス・フィットネス等」などの比率は低下した。

年代別にみると、1位は20代、40代、50代以上が「料理」、30代が「ビジネス・キャリアアップ講座」となっている。2位は20代が「ビジネス・キャリアアップ講座」、30代が「料理」、40代が「パソコン・プログラミング」、50代以上が「ガーデニング」となっている。

やってみたいおけいこ事、塾・サークル
（複数回答）



やってみたいおけいこ事、塾・サークル
（複数回答）

	全 体	20 代	30 代	40 代	50 代以上
料 理	22.0	23.0	21.8	22.7	20.9
ビ ジ ネ ス ・ キャリアアップ講座	18.6	21.2	26.4	20.9	9.2
パ ソ コ ン ・ プログラミング	15.7	14.2	16.4	21.5	10.4
楽 器 (ピアノ・ギター・バイオリン等)	12.8	17.7	14.5	12.3	8.6
外 国 語 会 話	12.2	14.2	15.5	8.6	12.3
ゴ ル フ	9.5	15.0	5.5	12.3	5.5
ガーデニング	8.9	6.2	4.5	7.4	15.3
ダ ン ス ・ フィットネス等	8.9	10.6	12.7	8.6	5.5
書 道 ・ 絵 画	4.9	6.2	4.5	4.9	4.3
ス イ ミ ン グ	3.6	6.2	3.6	3.1	2.5
陶 芸	3.5	4.4	0.9	4.3	3.7
手芸・編物・着付け	2.4	3.5	2.7	2.5	1.2
そ の 他	1.3	1.8	2.7	0.6	0.6

4 貯 蓄

平均貯蓄額は507万円

現在の貯蓄額の平均額は507万円（昨冬495万円）で昨冬と比べて12万円増加した。年代別に貯蓄額の平均額をみると、20代が287万円（昨冬比+33万円）、30代が501万円（同+79万円）、40代が506万円（同△123万円）、50代以上が665万円（同+102万円）となっている。

貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「101万円～200万円」、「2,001万円以上」、「201万円～300万円」、「501万円～600万円」の順となった。

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が84.5%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「株式」、「個人年金」、「投資信託」の順となった。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」は20代で7割超、30代以上で8割超となっている。また、「株式」と「外貨預金」は年代が高いほど利用率が上昇している。

今後増やしたい金融商品も「銀行預金」が最多

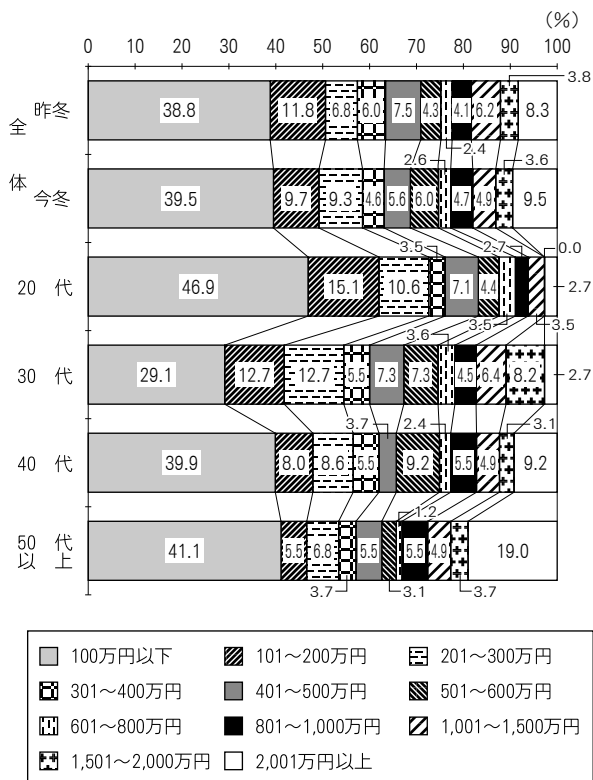
今後増やしたい金融商品（複数回答）は「銀行預金」が最多で、以下、「投資信託」、「株式」、「ゆうちょ銀行貯金」、「個人年金」の順となった。

年代別にみると、1位は各年代とも「銀行預金」で、2位は20代と30代が「投資信託」、40代以上が「株式」となった。

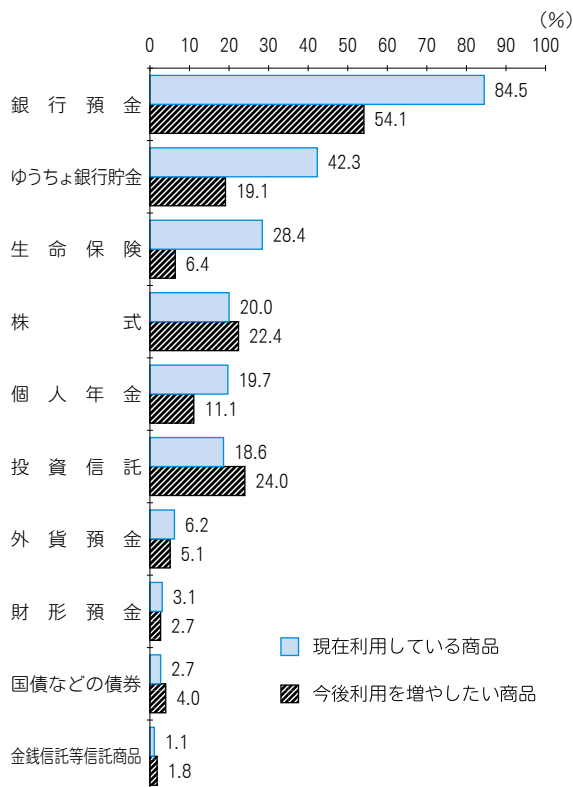
貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」、「値上がり期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となっている。

年代別にみると、1位は20代が「利回りが良い」、30代以上は「元金の保証があり安心」となった。2位は20代が「元金の保証があり安心」、30代以上が「利回りが良い」となっている。

現在の貯蓄額



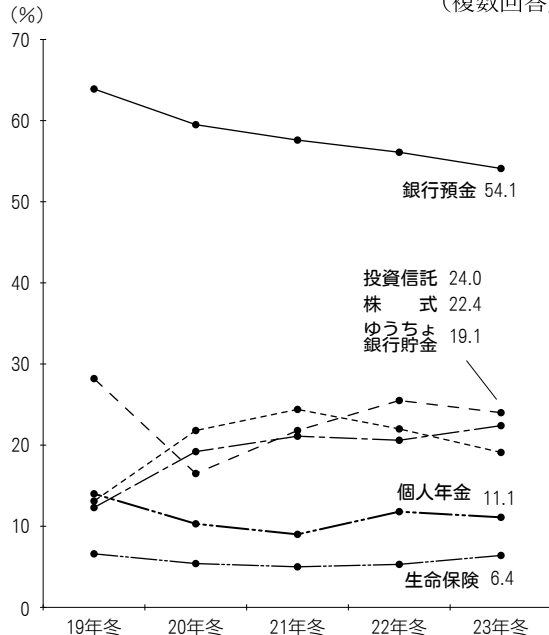
金融商品の利用（複数回答）



5 ローン等の利用

今後利用を増やしたい金融商品の推移

(複数回答)



平均借入額は1,019万円

ローン等の利用状況をみると、利用者は28.8%で、平均借入額は1,019万円となった。

利用目的(複数回答)は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」と続いた。

昨冬と比較すると、利用者の比率は0.7ポイント低下し、平均借入額も124万円減少した。また、利用目的では、「自分の教育資金・自己啓発の資金」、「旅行・レジャー」、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」の比率が上昇した一方、「土地・住宅の購入」、「子や孫への教育資金」の比率は低下した。

借入先(複数回答)は、「銀行(メガバンク・地方銀行)」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「ネット銀行」、「銀行以外の金融機関」(同順位)の順となった。昨冬と比較すると、「月賦・クレジット会社」、「政府系金融機関」の比率が上昇した一方、「銀行以外の金融機関」、「ネット銀行」、「銀行(メガバンク・地方銀行)」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者の割合は、40代が最も高く、以下、30代、50代以上、20代の順となり、平均借入額は、20代が437万円(昨冬比△71万円)、30代が1,490万円(同+395万円)、40代が1,205万円(同△301万円)、50代以上が766万円(同△272万円)となった。

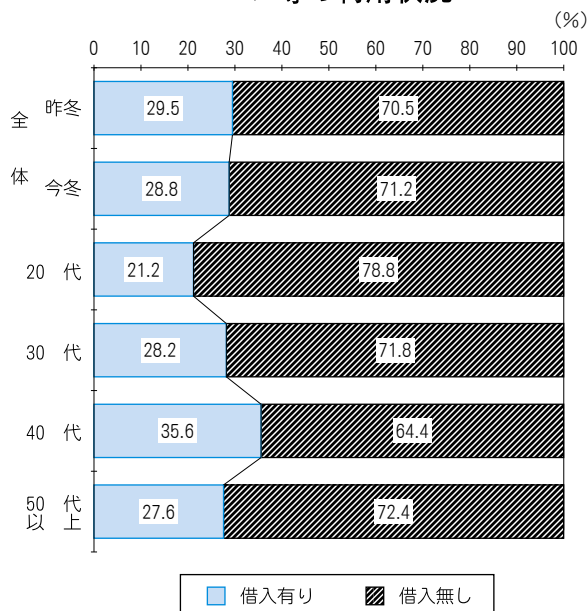
また、利用目的は20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」が、借入先は20代で「月賦・クレジット会社」、30代以上で「銀行(メガバンク・地方銀行)」が最多となっている。

貯蓄する際重視する点(3項目まで選択)

(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨冬順位
元金の保証があり安心	50.6	42.5	43.6	54.0	57.7	1
利回りが良い	43.4	44.2	42.7	44.8	41.7	2
預け入れ引き出しが自由	35.0	30.1	35.5	37.4	35.6	3
値上がり期待できる	26.4	21.2	33.6	25.2	26.4	4
利用金融機関が自宅から近い	12.4	17.7	12.7	11.7	9.2	5
利用金融機関のサービスが良い	7.1	6.2	11.8	6.1	5.5	6
勤務先が利用金融機関と取引している	2.7	5.3	2.7	3.1	0.6	8
利用金融機関が勤務先から近い	2.7	0.9	4.5	4.3	1.2	9
利用金融機関に友人、知人がいる	2.0	4.4	3.6	1.2	0.0	7
利用金融機関が集金にきてくれる	0.9	1.8	0.0	1.2	0.6	10
その他	2.6	0.9	3.6	1.8	3.7	—

ローン等の利用状況



「金利の低さ」を重視

借入先を選択する理由（複数回答）は、ローン利用者、未利用者ともに「金利の低さ」が最も多くなった。

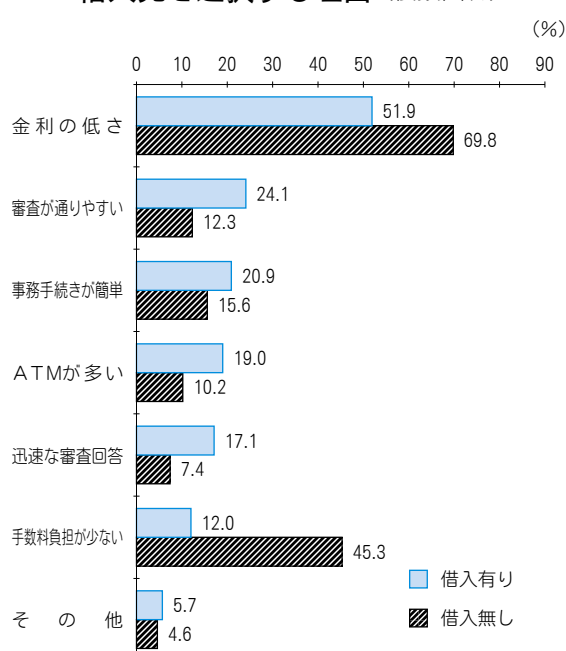
ローン利用者の2位以下の順位は、「審査が通りやすい」、「事務手続きが簡単」、「ATMが多い」と続いた。これらを年代別にみると、すべての年代で1位は「金利の低さ」となり、2位は、20代が「事務手続きが簡単」、30代と50代以上が「ATMが多い」、40代が「審査が通りやすい」となっている。

一方、未利用者の2位以下の順位は、「手数料負担が少ない」、「事務手続きが簡単」、「審査が通りやすい」と続いた。

ローン等の借入先・利用目的（複数回答）

		(%)				
		全体	20代	30代	40代	50代以上
利用目的	土地・住宅の購入	46.8	16.7	54.8	56.9	44.4
	自動車・家電品の購入	25.3	37.5	22.6	20.7	26.7
	教育資金以外の生活資金	12.0	12.5	9.7	8.6	17.8
	旅行・レジャー資金	10.8	20.8	3.2	12.1	8.9
	自分の教育資金・自己啓発の資金	10.1	25.0	6.5	10.3	4.4
	子や孫などへの教育資金	7.6	8.3	0.0	8.6	11.1
	その他	4.4	4.2	9.7	1.7	4.4
借入先	銀行（メガバンク・地方銀行）	50.6	29.2	41.9	62.1	53.3
	月賦・クレジット会社	24.7	41.7	32.3	20.7	15.6
	ネット銀行	12.7	12.5	9.7	6.9	22.2
	銀行以外の金融機関	12.7	4.2	3.2	13.8	22.2
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	6.3	4.2	6.5	6.9	6.7
	勤務先	2.5	0.0	3.2	1.7	4.4
	その他	6.3	16.7	12.9	0.0	4.4

借入先を選択する理由（複数回答）



6 冬季ボーナス

手取り予想額は減額が増額を上回る

昨冬と比べた今冬のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が11.4%、「減りそう」が26.3%となり、引き続き「減りそう」が「増えそう」を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は△14.9で、昨冬の△15.7とほぼ同水準となっている。一部の企業で賃金など労働条件の改善を図る動きが広がっているものの、総体では、勤労者のボーナスに対する見方は然程変化がない様子が窺われる。

なお、年代別にみると、各年代とも「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回っている。また、昨冬との比較では、30代と40代で「増えそう」の比率が上昇した一方、20代と50代以上では「増えそう」の比率が低下している。

平均手取り予想額は37万9千円

手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「51～70万円」の順となった。

また、平均手取り予想額は37万9千円（昨冬37万1千円）で、昨冬と比べて8千円の増加となった。

年代別にみると、20代が34万7千円、30代が35万6千円、40代が38万1千円、50代以上が43万6千円となっている。

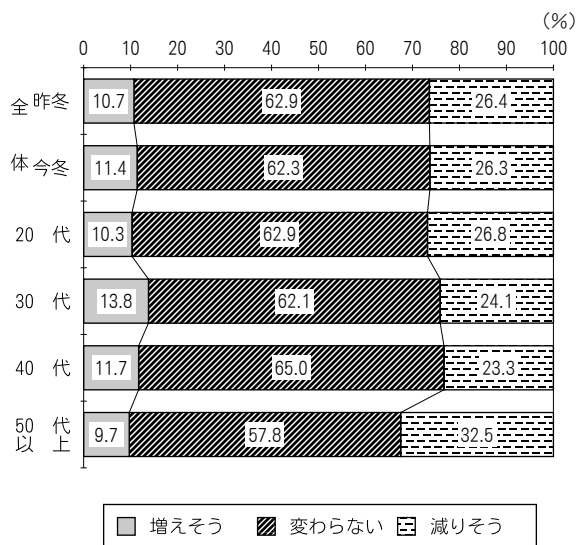
「貯蓄」の優位姿勢は変わらず

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、以下「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」、「教育費」の順となった。

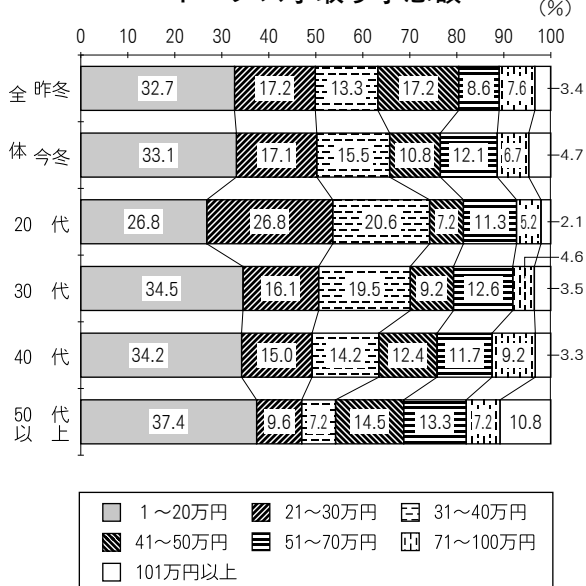
昨冬と比較すると、「旅行・レジャー」、「買物」の比率が上昇した一方、「ローン返済」、「教育費」は低下した。なお、「貯蓄」の比率は6割を占めており、昨冬と同水準であった。

年代別にみると、すべての年代で1位は「貯蓄」、2位は「買物」となった。3位は20代と30代が「旅行・レジャー」、40代以上が「ローン返済」となっている。昨冬と比較すると、20代で「買物」、「旅行・レジャー」の上昇、30代で「貯蓄」、「買物」の上昇、「ローン返済」、「教育費」の低下が各々目立っている。一方、40代以上では、使いみちに大きな変化はみられなかった。

冬季ボーナス増減予想

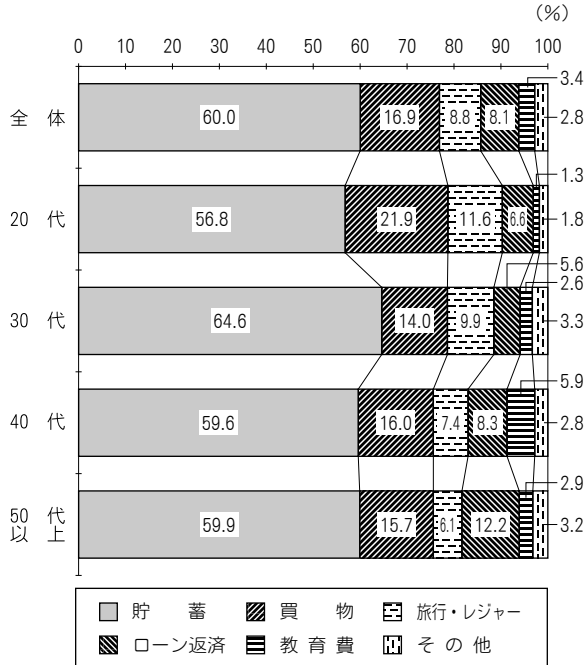


ボーナス手取り予想額

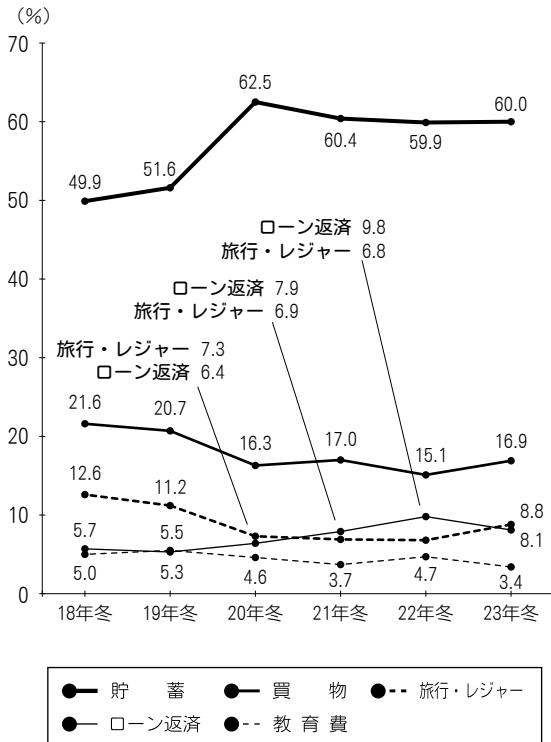


7 お歳暮

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移

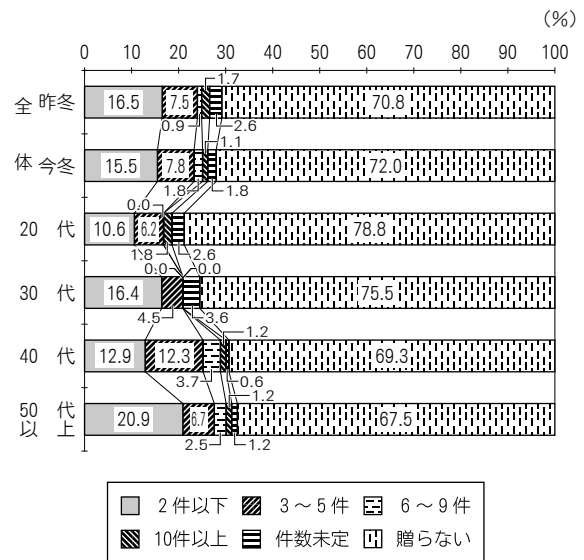


贈る件数は平均 2.7 件

今冬、お歳暮を贈る予定のある人は 28.0% で、昨冬（29.2%）と比べて 1.2 ポイント低下した。贈る件数は「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「6～9 件」、「件数未定」（同順位）、「10 件以上」の順で、平均贈答件数は 2.7 件となった。

年代別にみると、贈る予定のある人は、20 代が 21.2%、30 代が 24.5%、40 代が 30.7%、50 代以上が 32.5% となっており、平均贈答件数は、20 代が 2.5 件、30 代が 1.7 件、40 代が 3.4 件、50 代以上が 2.5 件となった。

お歳暮を贈る件数



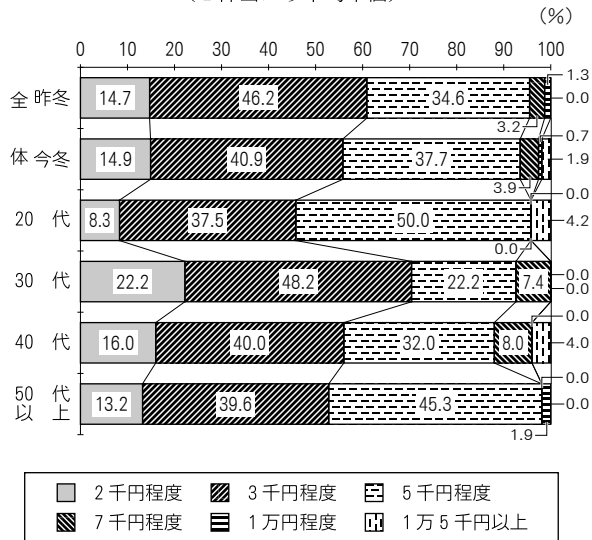
平均単価は 3,909 円、平均予算は 10,555 円

1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 40.9% と最も多く、次いで「5,000 円程度」が 37.7% となっており、この両方で約 8 割を占めた。また、平均単価は 3,909 円（昨冬 3,725 円）、平均予算総額は 10,555 円（昨冬 9,685 円）となった。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,750 円、30 代が 3,500 円、40 代が 4,204 円、50 代以上が 3,873 円となっており、平均予算総額は、各々 9,375 円、5,950 円、14,294 円、9,681 円となった。

お歳暮の相場

(1件当たり平均単価)



「ハム・ソーセージ」がトップ

お歳暮に贈りたい商品(5品目まで選択)は、「ハム・ソーセージ」が最多で、以下、「お菓子・スイーツ」・「ビール(含むビール券、以下同じ)」(同順位)、「直送生鮮品」、「食用油」の順となった。

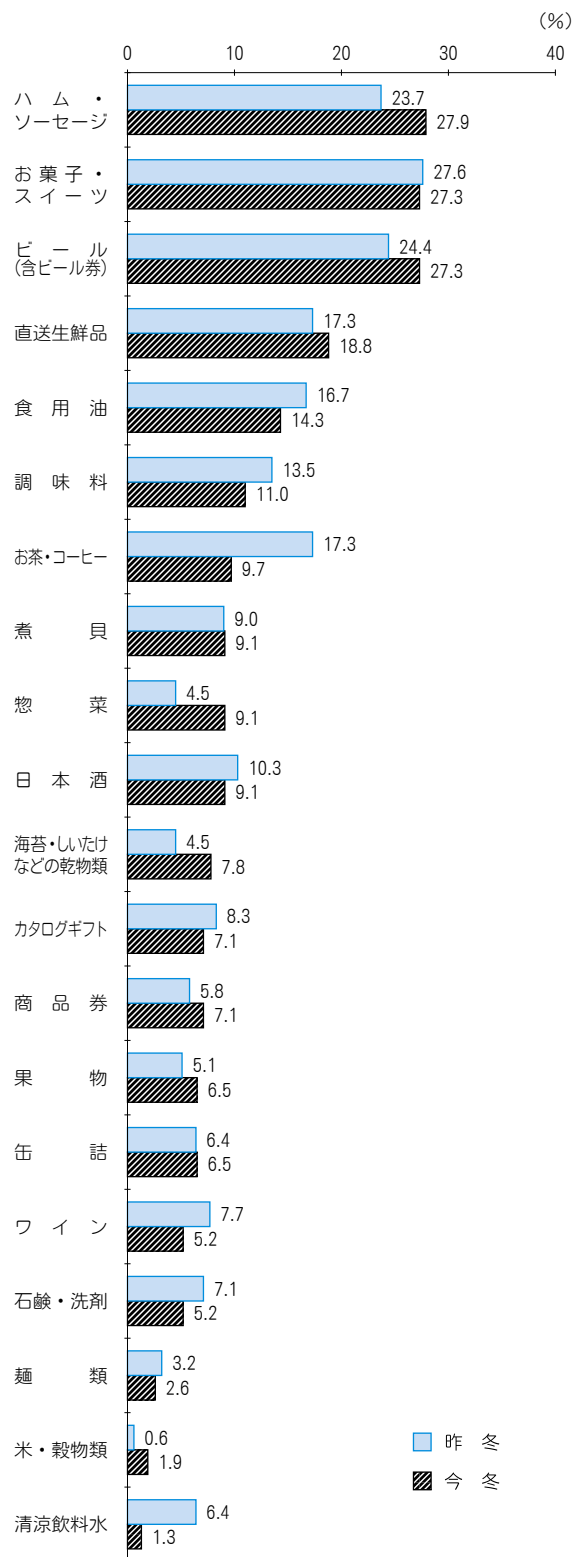
年代別にみると、1位は20代が「お菓子・スイーツ」・「ビール」(同順位)、30代が「ハム・ソーセージ」、40代が「ビール」、50代以上が「お菓子・スイーツ」であった。また、2位は、30代が「お菓子・スイーツ」・「ビール」・「食用油」(同順位)、40代が「ハム・ソーセージ」、50代以上が「ハム・ソーセージ」・「直送生鮮品」(同順位)となった。

お歳暮に贈りたい商品ベスト5

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	お菓子・スイーツ、ビール(含むビール券)(同順位)	ハム・ソーセージ	ビール(含むビール券)	お菓子・スイーツ
2	ハム・ソーセージ、煮貝(同順位)	お菓子・スイーツ、ビール(含むビール券)、食用油(同順位)	ハム・ソーセージ	ハム・ソーセージ、直送生鮮品(同順位)
3	ハム・ソーセージ、煮貝(同順位)	お菓子・スイーツ	お菓子・スイーツ	
4		食用油、直送生鮮品、調味料、日本酒(同順位)	ビール(含むビール券)	
5	直送生鮮品、総菜ほか3品目(同順位)	直送生鮮品、お茶・コーヒー、総菜(同順位)	食用油、調味料、総菜(同順位)	

お歳暮に贈りたいもの

(5品目まで選択)



8 冬休み、年末・年始の過ごし方

「日帰り旅行」などが増加

冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）は、「特に予定なし」が55.0%と最多となった。以下、「日帰り旅行」、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順となった。

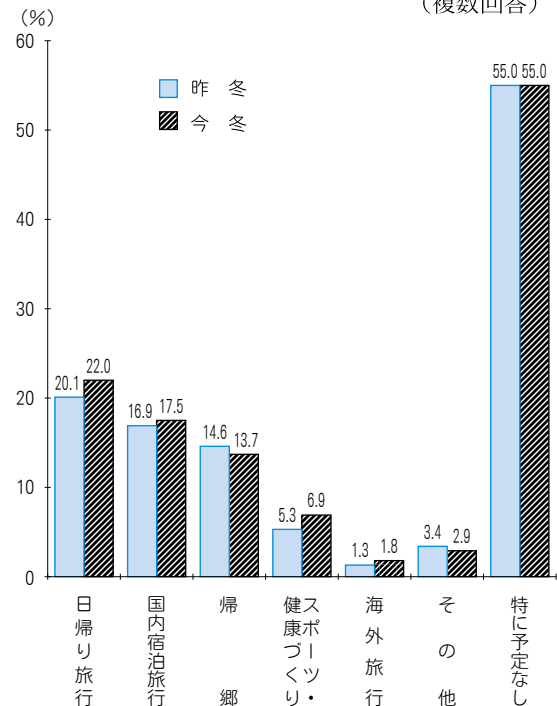
昨冬と比較すると、「日帰り旅行」が1.9ポイント、「スポーツ・健康づくり」が1.6ポイント上昇した。物価高の影響がみられるなか、気軽な休日の過ごし方への需要が高まっている様子が窺われる。一方、「国内宿泊旅行」、「海外旅行」もわずかながら上昇しており、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、その影響が和らぐなかで、宿泊旅行にも一定の需要が見込まれる。

年代別にみると、「特に予定なし」を除いた場合、50代以上で1位が「日帰り旅行」・「国内宿泊旅行」（同順位）となった以外は、すべての年代で全体の順位と同じとなっている。昨冬と比較すると、30代の「国内宿泊旅行」の上昇、40代の「日帰り旅行」の上昇が目立っている。

なお、「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」が43.8%、「2泊」が40.6%、「3泊」が11.5%で、平均宿泊日数は1.8日となった。

冬休み、年末・年始の過ごし方

（複数回答）



冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）

(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上
日帰り旅行	22.0	29.2	24.5	27.0	10.4
国内宿泊旅行	17.5	24.8	23.6	15.3	10.4
帰郷	13.7	15.9	20.0	12.3	9.2
スポーツ・健康づくり	6.9	10.6	4.5	8.6	4.3
海外旅行	1.8	4.4	0.9	0.6	1.8
その他	2.9	2.7	3.6	1.2	4.3
特に予定なし	55.0	44.2	45.5	56.4	67.5

(特別調査)

物価上昇・キャッシュレス決済関連

本調査では、物価上昇への対策とキャッシュレス決済の利用状況について伺った。

物価上昇への対策は「食費の節約」が1位

物価上昇への対策として取り組んでいること（複数回答）については、「食費の節約」が49.2%で最多となった。以下、「光熱費の節約」、「ポイントの活用」、「外食の回数を減らす」、「燃料費の節約」の順となり、昨冬の調査から「光熱費の節約」が順位を上げ、「ポイントの活用」は6.1ポイント低下し、1つ順位を落とした。なお、「対策をしていない」は、24.2%と全体の約4分の1を占めた。

年代別にみると、1位は20代から40代で「食費の節約」、50代以上は「光熱費の節約」となっている。2位は20代で「外食の回数を減らす」・「ポイントの活用」（同順位）、30代で「ポイントの活用」、40代で「光熱費の節約」、50代以上で「食費の節約」となった。

キャッシュレス決済を8割弱が利用

キャッシュレス決済の利用状況をみると、「利用している」が79.0%、「利用したことはない」が14.4%、「利用していない」が6.6%となった。「利用している」は、昨冬から2.8ポイント上昇し、8割弱となっており、キャッシュレス決済が広く普及している様子が窺われる。

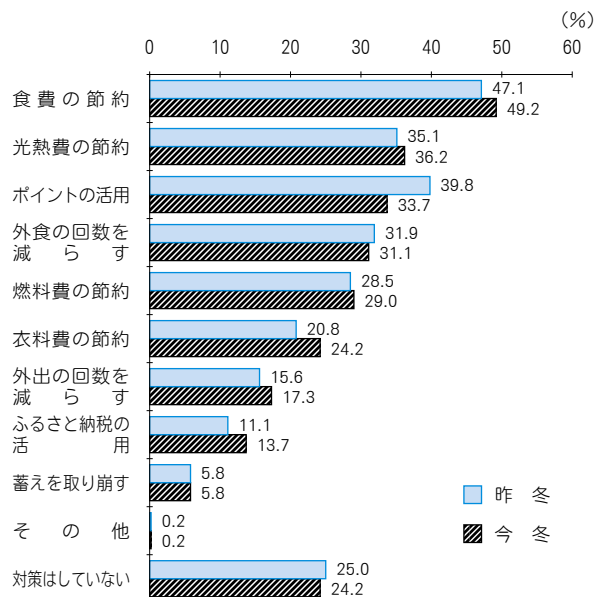
年代別にみても、すべての世代で「利用している」は7割を上回っている一方、「利用したことはない」は2割を下回っているなど、世代間の利用状況に大きな差はみられない。

キャッシュレス決済を利用している方に利用頻度を聞いたところ、「ほぼすべて」が54.4%、「現金決済と同程度」が33.9%、「特定の場面のみ」が11.7%となった。

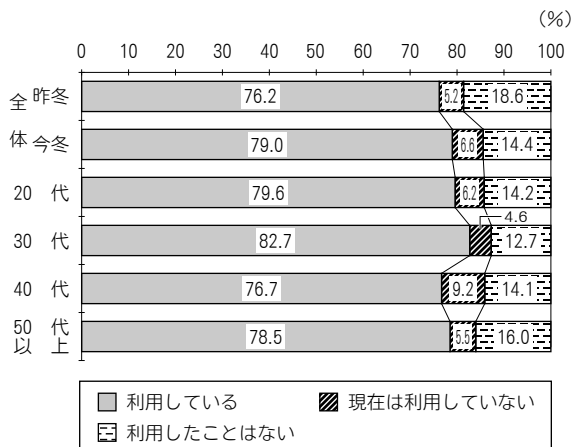
物価上昇への対策として取り組んでいることベスト5（年代別）

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	食費の節約	食費の節約	食費の節約	光熱費の節約
2	外食の回数を減らす ポイントの活用	ポイントの活用	光熱費の節約	食費の節約
3	ポイントの活用	外食の回数を減らす	外食の回数を減らす	燃料費の節約
4	光熱費の節約	光熱費の節約	ポイントの活用	ポイントの活用
5	衣料費の節約 対策はしていない	燃料費の節約 ほか2項目	燃料費の節約	対策はしていない

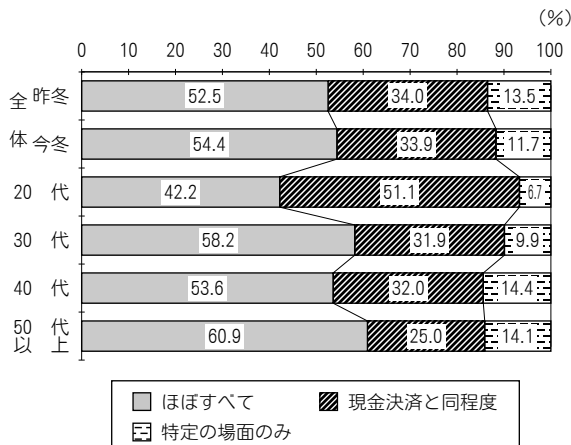
物価上昇への対策として取り組んでいること



キャッシュレス決済の利用状況



キャッシュレス決済の利用頻度



ご利用
無料



便利を tap! ヌビスキ Bank

山梨中銀アプリ

Yamanashi Chuo Bank

銀行の手続き、アプリでできました。



平野美宇 選手
(木下グループ所属)



SPORTING BEARS
©23 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No. 1641417

お金の管理、スマートに!

ダウンロードはコチラ



山梨中銀アプリ

検索



くわしくは山梨中央銀行の窓口
またはフリーダイヤルへどうぞ
(受付時間)月曜日～金曜日 9:00～17:00(ただし、祝日・12/31～1/3は除きます。)



0120-201862

照会コード
2

山梨中央銀行

<https://www.yamanashibank.co.jp/>